

第3期「田辺市地域コーディネーター養成講座」(平成22年度)

第4回講座報告書



日時：平成22年12月19日(日曜日)

会場：市民総合センター 2階交流ホール

田辺市教育委員会 生涯学習課

第4回講座概要

日時 平成22年12月19日(日曜日) 13:30~16:30

会場 市民総合センター 2階交流ホール

出席 受講生 32名

企画委員 3名

西川一弘(和歌山大学南紀熊野サテライト、社会教育委員)

山本純司(社会教育委員)

福田勝也(西牟婁教育支援事務所)

オブザーバー

・和歌山大学 堀内秀雄副学長

・公民館長 2名

高地館長、西田館長

事務局 4名

大門生涯学習課長・小川生涯学習推進係長・三栖公民館係長・事務員初山

日程

13:30 開会

13:35~14:35 講義「活動をつなぐ、ひとをつなぐ、地域へつなぐ」
~老いの地域・街なかの過疎地の実践からの提起~
講師：まなびーねっと貝塚 松岡 伸也

14:35~15:10 グループ討議

テーマ「松岡さんの講義を聞いて、地域の状況や、自身の活動を振り返り、心に残った言葉、キーワードを出し合う」

15:15~15:25 休憩

15:25~16:05 グループ討議

テーマ「各グループテーマの具体化」

16:05~16:20 各グループから報告

16:20~16:30 まとめ

松岡伸也さんから

16:30 閉会

16:30~16:50 チーフ会議

第3期「田辺市地域コーディネーター養成講座」第4回講座出席名簿

平成22年12月19日(日)

班		氏名	館区	出席	備考
1	1	しんたく はつえ 新宅 初枝	東部	×	サブ
	2	くりやま いよ 栗山 育代	中部	×	サブ
	3	おおた ひでのり 太田 秀範	大塔		記録
	4	うめはら えいじ 梅原 英嗣	芳養		チーフ 発表
	5	さかきばら かずひと 榊原 数仁	中部		
	6	あまづみ たかのり 雨積 隆憲	ひがし	×	
	7	つじ ひろき 辻 弘輝	大塔		
2	1	わ たま さやか 輪玉 さやか	上芳養	×	サブ
	2	やまもと こういち 山本 晃一	秋津川		記録
	3	かわべ ひろつく 川辺 弘嗣	ひがし		
	4	さたけ のりかず 佐武 範一	東部		サブ
	5	いながき えみこ 稲垣 恵美子	大塔	×	チーフ
	6	おかもと しんたろう 岡本 慎太郎	東部・南部		
	7	たかね まさふみ 高根 昌史	上秋津・秋津川		発表
	8	さかもと えり 坂本 恵梨	中央	×	
3	1	すぎの のぶゆき 杉野 伸行	芳養		サブ
	2	やまもと まみ 山本 真美	秋津	×	サブ
	3	まつば ふみえ 松場 史江	龍神	×	
	4	ふくだ ていこ 福田 禎子	新庄		記録
	5	はたに たもなり 畑谷 倫成	ひがし		チーフ
	6	のぎ としゆき 能城 利行	芳養		
	7	しもだ よしひと 下田 善仁	秋津		
	8	つじ いさお 辻 勇夫	龍神		発表

班		氏名	館区	出席	備考
4	1	もり ちづこ 森 千津子	新庄	×	
	2	たなか よしまさ 田中 良正	中芳養		チーフ
	3	せき みえ 関 美恵	本宮		発表
	4	たけなか ふゆき 竹中 冬樹	芳養		サブ
	5	まつい ゆき 松井 夕起	稲成		サブ
	6	おおにし みつのり 大西 光則	西部・稲成		
	7	おおくら せいしゅう 大倉 聖秀	上芳養・中芳養		
	8	まつした りきや 松下 力也	中央		記録
5	1	でくち じゅんや 出口 順哉	西部	×	
	2	やまさき のりこ 山崎 典子	万呂		サブ 発表
	3	かさまつ みちお 笠松 美知雄	上秋津		サブ
	4	くき かおる 九鬼 かおる	本宮		
	5	ひなわ しんや 火縄 信也	中芳養		チーフ
	6	みやもと ひろゆき 宮本 裕之	万呂	×	
	7	やました たけお 山下 武夫	本宮	×	
	8	やました ひさと 山下 寿人	中央		記録
6	1	えのもと あつひこ 榎本 敦彦	稲成	×	サブ
	2	あかはた よしゆき 岡畑 善幸	新庄		チーフ
	3	きかわだ みちこ 木川田 道子	長野		
	4	なかに つきこ 中谷 月子	中辺路	×	サブ
	5	なべしま かずひこ 鍋島 数彦	新庄		発表
	6	やまもと よしこ 山本 良子	三栖・長野		
	7	いけだ なおたか 池田 直孝	中辺路	×	
	8	あかもと まさゆき 岡本 将之	生涯学習推進係		記録

受講生計 32名

【講義】

テーマ：「活動をつなぐ、ひとをつなぐ、地域へつなぐ」

～ 老いの地域・街なかの過疎地の実践からの提起～

講師：まなびーねっと貝塚 松岡 伸也

活動紹介

- ・大阪府の貝塚市で、120人くらいの市営住宅で、高齢化率が70%を越す地域(いわゆる「都心の限界集落」)の町会館に事務所を置いて、地域支援活動を約10年行っている。約30名のメンバーで、地域でいろんな活動を各自展開しながら、地域を支えていこうという取組み。
- ・「どんまい」という障害者作業施設や小学校ふれあいのルームで、絵画を教えている。
- ・和歌山大学のプロジェクトにも参加し、特に秋津野・龍神での話し合いに感銘を受けた。
- ・その他、NPO法人活動などでも、高齢者の方々と関わる機会が多い。

高齢者問題について

- ・高齢化の問題は、今の日本の国自体の問題。前回の国際調査のデータでは「日本人(年寄りだけではなく若い人も含めて)の1/3が一人暮らし」という結果だった。問題は多いが、とりわけ高齢者の問題はほんとに大変だと実感している。

具体的に

- ・年を取ると、人間は間違いなしに誰もが病む。病んでいく過程の中で、自分自身の体が弱っていくのを自覚しながら、どう生きていくのかというのが問われる。

・田辺市の商店街の高齢化率は40%と聞いた。私の地域では73%。あまり想像したことがないと思うが、この地域でこれからどんなことが起こるだろうか。一人暮らしや老いからくる孤独感を持つ人達と一緒にどう生きていくのかというのが、多くの地域でこれから問われる。簡単に、「そしたら助け合いましょう」で解決できないところが難儀なところ。



- ・皆さんコーディネーターが人をつなぎ、地域をつなぐ、それに加え田辺市では市長さんが言う産業関係の振興も頑張りあいながら、地域を活性化していこうと、頑張ってもらえると聞くが、それはそれで当然のこと。その基盤である地域の人を考えると必ずしも若くて元気な人ばかりではない。「コーディネーターとして地域の人をつなぐときに、高齢者を無視してはいけない」という問題を今日は提供したい。高齢者問題と地域の活性化を一緒にどう考えていくか、コーディネーターはそこまで求められる。

松岡さんの母親の場合

- ・入院中の母を病院から引き取り、亡くなるまで自分で看護していた。その過程で「ああ、人間てこんなふうになるんや」ということを改めて感じた。

・見舞いの際、「今まで生きてきた中で人間との関係のつながりの広さこそが、生きてきた意味だったが、今いる関係の中では生きていない」と母親が言った。そこが問題だと医者に話すと、母親がきちんと考えていることに医者さえ驚かれる。その後家へ連れて帰り2ヶ月後に亡くなる。そのとき思ったのが、母親がとても話をしたがるということ。

・母親は再入院時、病院内での人間関係の中で、自分の生きることの大事さを考えていた。人間とはこういう存在。

・だんだん弱っていく様子を見ていて、人間はこういうふうにして死んでいくんだなと感じた。高齢化率が高い状況で、各家庭の中でどう生きているのかを話しているのはどう見えるのか、ということが大変な話。ところが実際に経験してみないとわからない。

・高齢者が70%を超える地域では高齢者は課題を抱えながら一人で生活をしている。生き方は死に方というが、まさに生き方の問題。生き方の中で今のそして、これまでの家族関係、また地域との関係が大切。

・地域の事務所にいると、地域の人が、「田中さんが倒れたから助けてほしい」とやってきた。現場へ行くと、取り巻く人はたくさんいて、みんな携帯電話を持っているはずなのに、誰ひとり119しない。これが今の社会の現状。

・家族関係や地域との関係がうまく機能できてない例も（資料11ページ）

・高齢化、死んでいくまでの過程はこんな感じだが、この話は別に貝塚市という街の話ではなく、皆さんの街もそうだと思う。

コーディネーターとして何をすべきか？

・今まで長く教育委員会にいたこともあり、学校関係の無理な“いちゃもん”はたくさん知っている。(いじめの加害者の言訳、ガラス破損の言訳、集合写真のクレーム等)グローバル化の社会の中で、地域でも利権追求が進行し、私たちの社会がこんなことになっている。これを否定するのではなく、現実の問題として受け止めていかなくてはならない。

・そんな自分勝手な意識がどういうふうに出てくるのか、なぜ生まれるのかを考えないと他人との関係はなかなかつながりにくい。

・公民館でも、仲良しグループが集まって活動している話をよく聞くが、さらにそこから広がって他の人も参加してくるかどうかが大事な話。

・貝塚市のコーディネーター養成講座は今まで10年ほどやってきたが、その中から、自分たちで課題を見つけて、地域に出てコーディネーターとしての役割を地域に発揮できるようなことになった人はほとんどない。実際は、行政の活動や事業の補完的なことや、自分たちで仲間同士で活動するまでしかできていない。

・私の地域では小学校の 1/3 が母子所帯で、若い母親が多く、どうしても長時間労働になる。そしたら子どもたちの生活がなく、集合住宅の中では、子ども達はテレビやテレビゲームで遊ぶようになる。つまり人間の関係、躰などの基本的な人間のあり方を体験できず、自分のものにできない。また朝食を食べない子どもも 1/3 以上いて、これによる弊害も色々言われている。

・こんなときに、たとえば経験豊かな子育てのグループが、地域の人を含んで活動していきましようとなればいいが、そこまでやろうとしない。これはとても現代的であたりまえ。この辺りをみなさんのグループ活動ではどうするのか、私は興味深い。

・田辺市は人口が 8 万ですが、公民館や PTA で学んだという人は何人いるだろうか。数的に言うと知れている。公民館や学社連携の中で学ぶことは大事だが、その時の出来る人が、出来る集団で賢くなるだけではいけない。他の人にも手を差し伸べられるかどうか。今そこが、学んだ人に問われている。

公民館の現状

・公民館のエースと言われた岡山市の話。この財政難の時代に岡山市の教育委員会では、嘱託職員であった主事を専門職として年に一人ずつではあるが正職員化していた。その岡山市で、市長が公民館の市長部局への移行を提案した。これは岡山市が非常にしんどいということの表れ。



・貝塚市（人口 9 万人）では、8 年前には老人の保険料の負担が一億だったが、2 年前には 2 億 4 千万円。保険課勤務当事に、健康の問題と地域のつながりを含めて保険料の出来るだけ安くないかという取り組みをした。教育関係と福祉関係と合わせて、健康学習を計画したが、1 年で退職し、結局できなかった。保険課も福祉課もできずに、結局保険料の負担額が 2 億 4 千万になった。北海道と九州のどこかでは減っているという実績がある。

・これには根拠があった。家の裏に 1 人暮らしのおばあちゃんがいる。家内が訪問していると、病院行くのが半減した。これを、できるだけ組織的にできれば成果があると考えたから。財政支出のことも根本的に考え直すことが必要。

・地域の人間関係、人間の力というのを引き出していこう。（年寄りだからうんぬんじゃなくて）ちゃんとした形で人と話が来て人とともに何かが出来るというのは、いくつになってもできる。それをできるというふうな状況を作っていくのが大変。

・徳島の葉っぱを売っているおばあちゃんも同様。そういう活力を作るのは人のつながりがあって、人のぬくもりがあって、知恵があって、働くことがあって、それをともに生かしながら作っていきましようかというのが、地域の作り方。

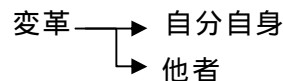
・かつて公民館のエースだった枚方の公民館は、教育委員会では廃止となった。市長部局の市民推進課か活動推進課へ移行した。岡山では公民館は社会教育の一環ではなく、安心安全課へ。

・「教育の大切さをぜひみんなで考え直しながらやっていきませんか。公民館の力をこれからも発揮していきたいし、公民館の位置づけをきちんとしていきたい」と反対運動が起こるが、実際に集まったのが5名。

・この講座では、学んだことをきちんと記録化できている。受講生はその記録を確かめて、自分たちのやっていることを次にさらにどうしていくか、という行動に移れる。堀内先生の叱咤激励もあるが、それからやれるかどうか。地域に帰って皆さんも同じように積極的に活動してほしい。

学ぶとは

・教育、学ぶとは、変革。自分自身が変わりながら、他社をも変えるという行為。変わりたいという気持ちが大切。



・公民館へ来た女性の話しであるが、シングルで貝塚市へ来て、公民館で活動するが主婦達の中に溶け込めず、ノイローゼ気味になる。職員の声かけもあり、再び公民館へ来て自分の専門分野（繊維工場の女工の差別問題）に生き活きと取り組むが、それが終われば再び地域との繋がりも希薄化し、孤独になる。現在70歳になり、近所づきあいもしてこなかったため、突然自分に何かが起こっても誰も気づいてくれないと思うと不安で眠れなくなる。仮面うつ病状態。

・今は一生懸命やっている民生委員がいる。「私はようやってる」と自負しているが、高齢化のため引き継ぐ人がいない。どうするのかと問うと「後は野となれ山となれや」と言う。これは「世話してやっている」「この人らとはちょっと違うんや」という意識があるから。それでは次に繋がらない。孤独の問題を考えて、自分自身のものになっているのに、生きていかない。こういう学びはむなし。こういう地域はさびしい。しかしこれが、現実。

・少ない人数の地域で、一番問題になるのは、災害時のこと。木造であるので、特に火災が心配。地域の災害の問題を考えませんかと言って、具体的に（一人で動ける人どれだけあるのか、それから二人でどうなんの？助けていざという時逃げられる？避難場所の小学校まで行ける？など）調べると、貝塚市の地域防災計画が役に立たないことがはっきりした。いつもプライバシーがどうという民生委員もさすがに、防災マップを作成した。

・では、地域防災委員はどうなっているのかと言うと、町会へも出席する事に。いざという災害時によそから応援が来てくれることは考えられない。やっぱり年寄りでもどんなことができるか、というのを考えとかないといけないということに。防災委員を作って、一緒に会議で会える必要があるというところまでやってきた。

・まるで、日本の話ではないようにと勘違いされそうだが、自分の地域の高齢化率や介護の話調べてみると、これが現実である事が良く分かる。

・町会（出席者はほぼ女性）で前の家の人の悪口になった。どんな人であっても何十年も前に住んでいるのなら、悪口ではなく、どうして、どうにかしてあげようという方向に話にならないのか。どうして敵対的な気持ちで人と接するのか。これは、皆さんの地域でもきつそう。

・秋葉原やサカキハラ事件、あれは「孤独」が引き起こした事件。全く人と話せない。人との関係がもてないときにどうなるかという例だと思う。

・3年前に80歳か90歳のおじいちゃんが、12時に奥さんがコーヒー入れてとって喧嘩になって殺してしまった。年寄りでここまで行くか。そのエネルギーどっから来るのか不思議でした。しかし現実の話。

・小泉改革の時に、経済をぐいっと引っ張り、それによってみんな潤っていくという中で格差が拡大した。これもはっきりした事実。

・経済問題も、グローバル化によって格差がどんどん生まれて、その格差の中をもっと細かく見ていくと地域の問題が見えてくる。

最後に

・地域の課題を解決するために学びあう。

寂しさや不安が原点となって、一人でいろいろ考えるけどもわからないから、公民館によってコーディネーターさんの知恵を借りようと、そういうふうになるのが学ぼうという姿勢。それを一生懸命サポートして支えるのが地域コーディネーターの役割。

・個人で、一度自分の地域のことを調査してみしてほしい。そのあとにみんなで話し合っ「共同学習」をしてほしい。

・個人学習 共同学習 個人学習 共同学習

他人と納得をしようのが学習。このことをどんなふうにくらまして、それぞれが充実させていくのかというのが、事務局の力量。皆さんも、よしこれにんえて一つ頑張ろうやないかということで、このコーディネーター養成講座を頑張って他人と共有して、自分のものにしてほしい。

・協働・協同・共同

特に「行政との協働」。田辺市がもつ課題に対して、市民ができること、市ができることを一緒に話し合っ、それぞれやりながら、力を合わせて取り組んでいっしてほしい。市・地域が豊かになるために、協働して解決に向かっていっしてほしい。

・以上、私からの問題提起でした。

【グループ討議報告書】

「学習の風景」

(第4回講座)

グループ名：キッズ♥ネットワーク	記録者：太田	平 22 年 12 月 19 日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化（子どもを中心にしたネットワークで地域活性化）		
チーフ：梅原	サブチーフ：	

まとめ

* テーマ

今の世の中は、『無縁社会』



(様々な事件等も起こってしまう悪循環)





社会問題

これからは、悪循環を好循環にするために何をするべきか？



「学習の風景」

(第4回講座)

グループ名：きずな	記録者：山本	平 22 年 12 月 19 日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化（豊かな人づくり）		
チーフ：佐武（代理）		サブチーフ：
まとめ *テーマ ・松岡先生の講義を聞いて、高齢者が置かれている現状と課題を出し合い、解決に向けた行動と実践活動を話し合った。 （現状と課題） ・一人暮らしでつながりがなくなると、災害時に助からない。 ・人に無関心な社会の流れが寂しい。 （行動と実践） ・人との交流を深める。 公民館の活用。サークル活動の活発化。 ・人と人をつなぐ環境づくり。 ・活力は人と人のつながり、ぬくもりから生まれる。 *テーマ ・前回グループテーマとグループ名を決めた経過を共有。 ・「豊かな人づくり」をテーマに掲げているので、豊かな人づくりを進めるにはどうすれば良いか。 ・世代間の交流。他の人にもっと興味を持ってもらう。意思疎通を図る。教育の視点で、スポーツ・文化行事をただするだけではダメ。 ・総合的なまとめは次回に持ち越し。		
		
		

「学習の風景」

(第4回講座)

グループ名：煌 (Fun) クラブ	記録者：福田	平 22 年 12 月 19 日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化 (人が輝く地域づくり)		
チーフ：畑谷	サブチーフ：杉野	
まとめ		
* テーマ		
・高齢者と交流の場を持ち、普段から気軽に交流し、話ができる環境作りに取り組む。 公民館などを利用する。		
・「介護」や「防災」に関して、教育の場から取り入れることが必要になってくるのではないかな。		
* テーマ		
・人が楽しんで輝ける場をつくり、そこで人のつながりを深めていく。		
・高齢者は高齢者で輝ける場を持ち、楽しんでいるが、若者が輝ける “ 責任感を持って自分を生かせることができる ” 活動の場を作る。		
		
		

「学習の風景」

(第4回講座)

グループ名：輪	記録者：松下	平22年12月19日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化(地域のつながり)		
チーフ：田中	サブチーフ：竹中、松井	

まとめ

* テーマ

(独居世帯)

～なぜ一人暮らし?～

- ・子どもが地域で暮らせない。
- ・家で親を見れない 親を見れる家の造りでない。家庭の状況。
- ・ヘルパーの対応。制度の中で理想と現実。
- ・一人暮らしの高齢者は寂しい。話がしたい。

(学び)

- ・仲間のグループだけでその周りとのつながりがない。
- ・学んで何ができるのか? 学んだ人が問われている。まず、自分に何ができるのか? 近所の人と話しをする。

* テーマ

- ・グループテーマは「地域のつながり」
- ・これまでのグループ討議の過程では主なものとして、子どものことや高齢者、防災などがあった。
- ・つながりのきっかけが大事。例えば、公民館報や回覧などの情報等。
- ・具体的なテーマは「公民館の活動」



「学習の風景」



(第4回講座)

グループ名：輪・和・話	記録者：山下	平 22 年 12 月 19 日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化（人の集まる地域づくり）		
チーフ：火縄	サブチーフ：笠松・山崎	
まとめ * テーマ (現状) <ul style="list-style-type: none">・高齢者と話す機会が無い。・現在の死は管理されている。・他人と自分のところの年寄りとは違う。・夫の両親（80代）が隣に住んでいるが、1日全く顔を合わさない、話しをしない時があった。なるべく用事がなくても様子を伺いに行くようにしている。・近くにグラウンドゴルフ場が出来て、日中遊びに来ている高齢者もいるが、自分の親をその場に参加させるのが難しい。・話すネタや時間が無い。何の為に生きているのだろうと、自分の義母を見て思う。 (疑問点) <ul style="list-style-type: none">・人と人との“つながり”の希薄化はどこまで進んでいるのか？・高齢者の井戸端会議もないのはなぜ？・親と子の絆とは何か？・何をしたらいいのか分からないし、何が出来るか分からない。・何かみんなでしたいと思っても、それが本当に必要としているか分からない。・何をしたいか分からない。・地元以外の高齢者との接し方が分からない。 (意見) <ul style="list-style-type: none">・自分がまだ人に何かを教えられるという技術能力がないので、コーディネーターの勉強をしても不安感がある。もっと自分自身が勉強したいと思う。・何もしていなくて3食きっちり食べられるのが不思議。・寿命を延ばすだけの医療（薬）をしなければ良い。・人より目立つことをすると、後でも何か言われるという風潮があって、あまり先頭をきって何かをやることに抵抗がある。・車の運転ができなほど年寄りになったら、町に住みたい。・他人には元気で楽しく生きて欲しいと思う。		



「学習の風景」

(第4回講座)

グループ名：コミュニティ・フューチャー	記録者：岡本	平 22 年 12 月 19 日
テーマ： 講義を聞いて心に残ったキーワード グループテーマの具体化（コミュニティビジネス）		
チーフ：岡畑	サブチーフ：	
まとめ * テーマ (キーワード) 1. 知らないこと、考えさせられたこと、気付かされたこと ・貝塚市では、町内会館に事務局を置けている。知らないことがいっぱい。 ・自分の住んでいる所の状況が分からない。 ・高齢者の現状が身につまされました。自分の地域を見たときに共感するところがあった。(独居老人。防災面) 2. 自分の地域、自分の将来を考えて ・病院で死ぬことが多く、現実が見えにくい。自分も家で自分らしく最後を迎えたい。 ・限界団地。10年後の地域に不安はある。人が減っていく。 ・高齢化への自分の取組を考えてみたい。 ・男性と女性の違いがある。男性は孤立していくことが多い。男性は、地域の集まりや人の集まりが少ないのでは。 * テーマ ・議論ができませんでした。		
		
		

【グループ討議のまとめ】 まなびーねっと貝塚 松岡 伸也

・率直に言うと、やはりあまり細かく考えている人はいないと思った。しかしこれは当たり前。なぜなら、田辺に限らず、今は進学や就職で家を出て、結婚しても親と別居をするため、両親と一緒に生活をしない。それで、両親は本当に充実して生きているのか、老いの話が見えなくて、どんなふうに弱っていくのか、どれほど孤独なのかがわかっていないからである。

・貝塚市には、足が良くなって来る前にお医者さんに足をもんでもらってから来るという人がいる。なぜそこまでして来るかというと、人がいて、話ができるから。安心やつながりを求めてやってくる。



・絵を描くことは、自分自身を出すことでもあり、人とつながるといふ行為。障害がある子どもに絵を教えていて、一生懸命お母さんの絵を描く子を見たり、絵を描くことで興奮を覚える子どもを見ると、「人は間違いなしに、どんな人であっても、人と話したいし、人の中で一緒にいたいし、人と共に生きたい！と思っているんだな」と実感した。

・高齢者は、決して敬老会に連れて行ってもらいたいのではなく、自分は「こう生きたい」という意志を持っていて、そして人と一緒に生きたいと思ってる。自分の地域の人を、自分の親の死んでいく状況をきちんと見てほしい。その過程を全部見て欲しい。

・老人は歳がいったから老人になるのではなく、労働から疎外されるから老いに向かう。簡単に言うと、役に立つか立たないか、ということ。そういう別の側面も考えてほしい。

・「学ぶ」とは、「今日ではない明日が生まれること」。疑問、驚き、不安を軸にして先人の知識や知恵も参考にしながら、ああだろうかこうだろうかと考えて自分のものにすること。そして自分が納得して、自己変革を起こすと、次にそれを他人と共有して、一緒に考えて、他人と共に変革をしていくこと。これが学ぶという事。

・最後に、枚方や岡山でいろんな公民館の動きがあるが、市長部局へ移行しようとも、必ず、住民の知恵力が要る。市が何でもしてくれるのではない、動くのは人である。今まで公民館で経験してきた、その地域の力を使うことは絶対大事。

・このコーディネーター養成講座で、地域の人と公民館職員と一緒に学ぶ様子を見て感激した。一緒に考えあう事の中で別の活動が生まれていく。公民館は地域の人が集まって、一緒に文化活動や、学習をする場所であるので、みなさんの力で「社会教育にある公民館にある学習を地域にどう生かしていくのか」という課題に取り組んで欲しい。それは必ず「老い」の問題とも繋がる。

第2回チーフ会議の結果

時間：16:30～16:50

出席：1班～梅原英嗣 2班～佐武範一（サブ） 3班～畑谷倫成
4班～田中良正 5班～火縄信也 6班～岡畑善幸
西川企画委員・福田企画委員・山本企画委員・小川係長

岡畑チーフ代表の進行により、本日の各グループの様子と今後の講座運営について協議を行った。

【申し合わせ事項の確認】

第1回チーフ会議で決定した「チーフ会議申し合わせ事項」を再度確認。

【受講生交流会の報告】

12月10日（金）に開催したチーフ会議発案の交流会は、受講生、企画委員、事務局合わせて20名が参加し、「まるた」で開催したことを報告。

【グループの様子について】

- ・グループ内の意見が出ないときは、チーフとしてもう少し積極的に引っ張っていかねばならないと感じている。
- ・グループ討議の内容は濃かった。コーディネーターの役割が良く分かった。
- ・介護の現場で仕事をしている方がグループ内にいたので、松岡さんの話を受けて、地域の高齢者の状況を良く聞かせていただいた。
- ・グループ内のメンバーは、日頃高齢者との関わりが無い人が多かったから、松岡さんの講義に対して質問が多く出された。
- ・高齢者の現状が分かっていないことが、つくづく感じた。

【次回の講座運営】

- ・司会は、5班チーフ火縄信也さんが担当することで決定。



【第4回講座アンケートまとめ】

出席者 32人
アンケート回収 31件 96.9%

質問1 講座内容	31件		質問3 グループ討議での発言	31件	
1 おおいに参考になった	14件	45.2%	1 おおいに発言できた	3件	9.7%
2 参考になった	16件	51.6%	2 発言できた	22件	71.0%
3 難しかった	1件	3.2%	3 あまり発言できなかった	6件	19.4%
質問2 グループ討議	31件		質問4 講座の運営	30件	
1 意見が深まった	20件	64.5%	1 良かった	28件	90.3%
2 意見が十分まとまらなかった	10件	32.3%	2 悪かった	0件	0.0%
3 あまり意見が出なかった	1件	3.2%	3 どちらでもない	2件	6.5%
質問5 自由意見(感想など) 21件 67.7%					
シビアでショッキングな内容のお話だったが、非常に勉強になりました。					
グループ討議では意見を出し合いながらまとめることができ、とても良かったと思います。					
孤独社会の弊害がたくさんあることが分かった。					
とても熱心に講義をいただいた松岡さんに感謝しております。					
この講義に来て良かったことは、やはり色んな環境の方の色んな状況、考え方が聞けることだけでなく、自分の考えを話した時に共感してくれたり、別の意見を提案してくれることです。年を取っても会話をすることが大事な事なんだなあと思いました。					
なかなかテーマとかが大きく、絞り込むことが難しいなあと思った。具体的に何かををすることはかなりむずかしい事だと思う。					
テーマはすごく広がったが、今回でテーマ、方向性を共有することができて良かった。					
高齢者を家に抱えているが、疑問に思うことが多い。何が楽しみで生きているのか？といつも思う。それを聞くための話しをする暇も無い。三度の食事を与えるだけしかできていない現状を改善もできない事も悩みである。他人の高齢者とは上手く付き合えていると思う。					
松岡先生の高齢者をテーマにした講義は大変ショックでした。自分がいかに表面上のこと(高齢化率が何パーセントであるとか・・・)しか知らない現状に恥ずかしい限りです。テーマについては、前回欠席していたので、他の皆さんから教えていただきました。まとめ、発表に向けて頑張りたいと思います。					
松岡先生の実例をあげての講演で、いかに人間関係が希薄になっているか痛感した。					
知っていた事、新たに聞いた事の両方を含めて、いろいろな気づきがあった。					
グループ討議の中で、色々な発言、意見が出てきた時に、それぞれの受講生の思い、意見が似たものが多いこと、そして話し合いをしていると、やはり原点に戻ることが多かった。「田辺市」を良くするには、「各地域」を良くするには、「地域の人々」が元気に活動出来ていくには、「自分」。まずは、自分が元気に活動していく事が大切。発言しているだけではなく、動いていかなければいけないと思いました。高齢者問題について、自分の親をみれない色々な環境も大きいと思いました。その環境で育った子どもはそれが当たり前になる。					
自分の仕事に関するテーマ講座だったので、皆さんの意見も聞けて勉強になりました。グループ討議も慣れてきたこともあり、話し合いもスムーズに進みました。今後も楽しみに出席したいと思います。					
大変有意義な講座でした。内容については、グループ討議(回数を重ねること)に活発な意見交換ができています。最後になりましたが、松岡先生の講義を聴講し、コーディネーターとして地域づくりに貢献したいと改めて感じました。					
松岡先生の話聞いて、まず自分の家族、近所のおじいちゃん、おばあちゃんへの声かけを始められればと思う。					

グループで「高齢男性の孤立化」の話題が出た。女性はいくつになっても結構元気で、色んな講座にも積極的に出かけられている人も多いのでは？人と話しをする中で、色んなことに気付かされることも多いので、地域でそういう機会をなるべく作れたらいいと思う。「公民館」という場所で出来ることは多いと思う。

人と人のつながり、コミュニケーションの大切さを再認識しました。

主事の発言が多かったので、発言しやすい環境をつくりたい。次回の課題です。

講座については、高齢者社会である現代社会の深刻な現状と、人の死について改めて認識させられ高齢化社会への取組、家庭や地域でのつながりなど、自分なりに考えました。

グループ討議では、テーマを決める議論を行った。皆さん、それぞれの意見があったが、最終「公民館」というテーマで進めることとなった。